



特集

< tsumiki × イトナブ >

利府町から世界を変えるデジタル人材を育てる。

プログラミングスクール「ナブかつLAB in 利府町」

ITが暮らしの中に密接に関わるようになった今、Webサイトなどを作成できる人材は多くの場所で求められてきています。そんな中tsumikiでは、国が求めるデジタル化に対応するため、IT人材の育成に優れた実績がある株式会社イトナブと連携し、利府町におけるデジタルものづくり人材の育成に取り組んでいます。

2022年度から、tsumikiを会場に開講したプログラミングスクールは、イトナブからプロの講師を派遣。スキルアップにつながる丁寧な指導を受けられ、「パソコンさえあればどこでも学べる！」プログラミングを集中的に学ぶことができます。Webサイト作成コースを設け、プログラミングの基礎から実際のWebサイト作成まで一貫して学ぶ講座（全8回）を実施しています。

2022年度1期生は9名（内、2名が2023年度も継続）、2023年度2期生は13名が受講。ほとんどの方がプログラミング未経験の初心者で、中学生から70歳代までと幅広い年代層の方々が一緒に学習しています。

今回の特集では、プログラミングスクールの取り組みをご紹介します。

構成 葛西淳子

イトナブ 株式会社イトナブ

設立は、2015年。石巻市を拠点に、教育事業、開発事業、ソーシャル事業の3つの柱で事業を展開しています。イトナブが掲げるミッションは、ITで生きる、はじまりの場をつくること。地方都市部で潜在能力があるにも関わらずその能力を開花させられていない若者に、プログラミング教育を通じて、「自ら学び」「コミュニケーションをとる能力を養い」「挑戦する力を身に付け」、地方都市からでも世界で活躍できる若者を育て、未来の日本を活気づけることがねらいです。プログラミングに興味を持ってもらえる「きっかけ」から始まり、「探求」にてプログラミング技術を高め、「活躍」できるまでの発射台を全世界に作るために、地域自治体・大学・高校などと連携を行いながら人材育成を実施しています。

石巻オフィス

宮城県石巻市大街道北1-1-16 かじやビル2階

0225-90-4282

https://itnav.co.jp/

Nabukatsu LAB in Rifu

地方部でも都心に負けないプログラミング教育

イトナブは、若者たちにプログラミングが学べるコミュニティをつくっている会社です。若者を育てるには、素晴らしい環境や教材よりも「刺激的な出会い」に尽きるとしています。刺激を与え合う仲間との出会いがあれば、自ずと学びを膨らませていきます。だからこそ、イトナブでは人との出会いを中心に据えた教育モデルを構築しているのです。

東日本大震災後の2012年に会社を立ち上げ、石巻を中心に各地で事業展開。これまでの活動地域は15地域を越え、のべ2500人以上の若者にプログラミングと出

会うきっかけを提供してきました。こうして地方自治体や地域企業の方々と仕事をすることで、浮き彫りになってきた課題がありました。それは、若者たちが地域から都市部へ流出している状況と、全国的にDX情報化が進む中で情報化を推進する担い手が地方部には少ないといったことです。経産省が提供している資料を見ても、2030年には約80万人のIT人材が不足するシナリオも出ており、全国的にIT人材が不足している状況を感じました。そこで、地域内に情報化人材が育ち続ける循環型の教育コミュニティを作り、地方

部でも加速化するDXに対応できる人材を育てられるモデルを作り上げました。自治体と連携し、地域の高校・大学・中学にアプローチを行い、プログラミングを学びたいと思っている学生たちに学べる環境を提供しながら、学んだ学生が次に新しく入る学生に教えるといった部活動のような形の循環型教育モデルを展開したのです。また、地域に「ナブかつLAB」という拠点を作り、学生がプログラミング技術を活用し、地域の課題解決や、地域企業のウェブサイト制作やシステム開発をサポートする活動を行いながら、自らも技術力を上げていく活動を開始しました。利府町でもこの活動と連携し「ナブかつLAB」を実施する運びとなりました。

株式会社イトナブ代表取締役 CEO 古山 隆幸 さん



受講者（1期生）



ろざんくん（高校生）.voice

「架空の水族館」のサイトを作っています。プログラミングのコードの意味や使い方、サイトのギミック（仕掛け）などについて詳しく学べるのがおもしろいです。作成しているサイトは、さらに要素を付け足すなど工夫をして完成させたいです。

Nabukatsu LAB in Rifu



イトナブ教育部
プログラミングスクール講師
金光 宏 さん

大 学生の頃、古山代表と出会ったことが今の仕事をするきっかけとなりました。山形から石巻に移住し、半年間のインターンを経てイトナブに入社し6年目になります。

イトナブでは、プログラミングの技術を学んでいる学生たちが集まれる拠点を整備し、新しい仲間たちと出会い、新しい技術に触れ合える場所づくりの事業も進めてきました。利府町にも、いつでも技術を学べる環境を作っていけたらよいと考えています。

利府町の受講者は、tsumikiとの連携企

画であることも影響し個人事業主の方が多いのが特長のひとつ。他の地域ではプログラミングをやってみたいという好奇心から始める方が多いなか、自分の店のWebサイトを作りたいなど明確な目標を持って積極的に取り組んでいます。

学ぶだけではなく、自作したWebサイトを自身の仕事に役立てるという展開は理想的です。また将来的には、技術を学んだ人材と技術者を必要としている会社をマッチングすることも可能性のひとつ、利府町内での仕事の幅が広がっていくのではないのでしょうか。

Nabukatsu LAB in Rifu

利府町で実施している「ナブかつLAB」プロジェクトは、中学生から大人を対象に自治体と連携し、地域の若者たちにプログラミングを学んでもらい、将来的には学んだ技術で活躍できる人材を育成する事業です。これまで、神奈川県横須賀市、岩手県滝沢市、最近では北海道美幌市で実施してきました。

講座の内容は、開催地域に合わせ組立えています。例えば5年間継続して実施してきた横須賀市は、中高生の受講生が多いのが特色でした。開講当初学んでいた学生が、今では教える側になっているとい

ように人材育成につながっている事例もできています。

自身も、小学高学年の頃、イトナブのプログラミング教室に通いはじめた一人です。工業高校を卒業した後の就職先を考えた時選抜校として、学ぶ立場から教える立場になりたいとイトナブへの入社を希望しました。

プログラミングのおもしろさを学べる体制は整っています。利府町の受講生は、プログラミングを学び自身の仕事や将来に生かしたいという意欲的な方が多いので、全力でサポートしていきたいです。

イトナブ教育部
プログラミングスクール講師
八重樫 蓮 さん



れんれん

受講者（1期生）



さとみさん（自営業）.voice

作成しているのは「冬眠図書館」。架空の図書館のホームページです。普段目にしていないサイトが、実はこんなにも大変な作業の結果でできていることに感動し、その「裏」を知るようでとても楽しいです。見るだけでわくわくするサイトを作りたいです。

今後の展開

今年2期目を迎えたプログラミングスクール。利府町内でもその関心の高さが伺えます。プログラミングと聞くと一部の人達の専門分野と捉えられ、敬遠されがちですが、イトナブと連携して行うプログラミングスクールでは、初心者でも講師が一から丁寧に教えてくれます。また少人数を対象としているので、一人ひとりのニーズに沿った相談にも応じることができるのも特長です。

プログラミングを学ぶことをとおして、現代社会におけるITを中心としたデジタル技術に対応できる人材を育成し、さまざまな課題を抱える地方での活躍が期待されます。tsumikiでは、今後もプログラミングに関心のある若い世代を主なターゲットに、デジタル人材を育成し、コミュニティとネットワークをつくります。行政、企業、NPO等が協働しデジタル技術を学び合う地域人材循環システムを地方から生み出すことで、IT分野において将来に渡って活躍できる人材の輩出を目指していきます。

< tsumiki ディレクター 桃生和成 >



受講の様子_パソコン.jpg



受講の様子_れんれん.jpg



受講の様子_わいわい.jpg



受講の様子_よつつ.jpg

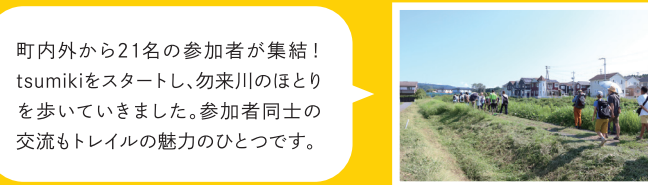
利府町のんびりまち歩き

利府トレイルって?! 利府駅周辺の魅力が詰まった4.2kmの道を歩く

案内人 ● 一般社団法人タンコーナリ 石井宏之さん
日 時 ● 2023年9月10日(日) 9:00~12:30



スタート 利府トレイルってなんだろう？ 説明より、体験した方が早い！ と、実際に利府町内の道を歩いてみました。利府町には何もないのではなく、「何かと出会う。地域それぞれに魅力があることを再発見する」コースです。



わいわい



ごうらく
郷楽遺跡

縄文から中世までの遺構が発見され、ここ出土した朝顔形埴輪が、令和になって利府町郷土資料館のゆるキャラ「あさがオー」になったんですよ。と、生涯学習課の高橋義行さんが説明してくれました。



きれいな景色！



梨畑のトンネル

こんな体験はじめて！
梨を眺めながらお散歩です。



日本みつばち養蜂場

稀少種である日本みつばちを育て、「利府のはちみつ」を作っている鈴木安洋さんの養蜂場「みつばちパーク」を見学。日本みつばちの巣箱の中も見せてもらいました。皆さん、鈴木さんのお話に興味津々です。



廃線路跡

丘を下りると、かつて東北本線（山線）が通っていた廃線路跡にぶつかりました。どこまでも真っすぐ続く道。気持ちいいですね！



旧利府街道

江戸時代、宿場町として栄えた旧利府街道沿いを歩きました。今でも由緒あるお寺や立派な門を持った邸宅があり、往時の面影を遺しています。仙台湾の寺子屋第一号は、利府なんですって！？びっくりですね。

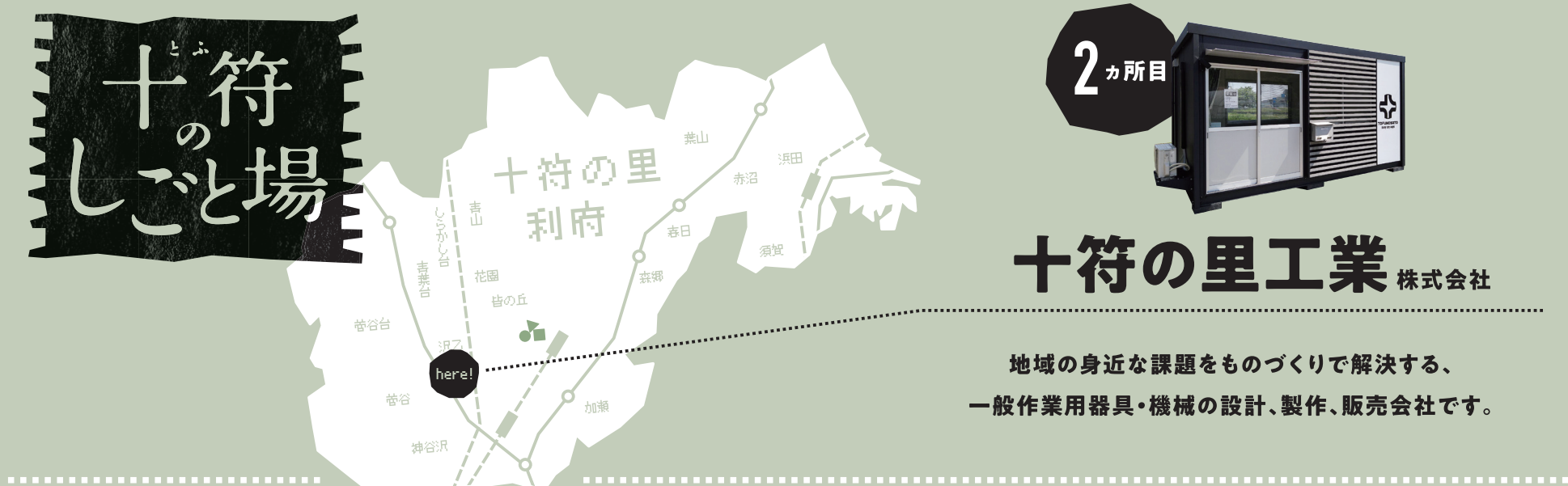


利府は寺子屋も盛んだったようです

改めて… 利府トレイルとは

普段、車や自転車を通り過ぎてしまっているところでも、歩いてみると思いがけない発見や気づきが得られます。それがトレイル（ハイキング）の醍醐味です。これまで見過ごしてしまっていた魅力ある場所や人をつなぎ、利府を丸ごと堪能してもらおうの舞台。それが利府トレイルです。今回はその一部を歩きましたが、構想は利府全体を一本の道でつなぐことです。完成すると、全国から旅好きがやってくるので、町の活性化にもなりそうです。利府トレイルプロジェクトを応援してくださいね！（石井宏之）





小さな悩みを技術で解決
利府のものづくりを世界へ伝えたい！

場所があればどこでもできる。
技術で解決するのが機械屋の矜持

「狭くてすみません」。取材当日約
束した時間に会社を訪問すると、社
長の大友一史さんが腰を低くして迎
えてくれました。社長自ら「狭い」
と形容した事務所の中には、機械を
製作するための作業台が一つと、機
械設計作業用のオフィステーブルが
二つ、周りに物品保管用のキャビ
ネットが数台置いてあるだけでし
た。機械製作というと、大きな工場
を思い浮かべてしまいますが、ここ
はそうではありませんでした。
「広さは関係ありません。場所が
あればどこでも仕事はできます」む
しろ小さいからこそ、お客様の小さ
なリクエストにお答えできて喜んで
もらえ、「大手メーカーには頼めな
いことを気軽に相談できるのがウチ
の強みです」と言います。
その一例として、昆布の加工会社
から受注があった試作段階の機械を
見せてくれました。そのプレス機は、
手動から自動へと改良され、ボタ
ンを押すだけでホットプレス作業の最
初から最後までを自動互換していま
した。後日、出来上がった機械を納

品すると、現場からは「すごい！こ
んな機械が欲しかったんだ」と感嘆
の声があがりました。製作の過程で
作業者の不便を聞き取り、ニーズに
合わせて改善したことで、作業効率
や生産向上につながった結果です。
大友さんの言う「現場の課題を技術
で解決する」ことを実証する事例で
した。

「どこに相談したらいいの？」に
寄り添える会社でありたい

大友さんが自分で会社を興した
きっかけは、2020年にさかのぼり
ます。それまで18年間勤めていた
産業機器メーカーの工場が閉鎖と
なったことを機に退職。工業系の分
野を専門として、設計、製図、検証、
報告書作成等、ものづくりに関する
一連の業務を経験してきた大友さん
の心には、「地域に必要な技術を伝
えるため、お客様と直接のやりとり
をしながらものづくりをしたかつ
た」という想いがありました。
起業するにあたり、大友さんが注
目したのは農林水産業の分野でした。
少子高齢化による労働力不足。これ
は特にこの分野に限ったことではな

いのですが、この問題に取り組まな
ければ地方の問題は解決しません。
自身の技術を使って、少しでもこの
分野における問題を解決したいと心
に決め、会社設立に至りました。
事業事例としては、水揚げされた
魚を自動選別する装置の投入機設計、
農作業（除草作業など）の肉体労働
改善に関する相談対応、養鶏場の臭
気対策に関する産学連携事業のコ
ーディネートなど。これまでの分野と
は少し勝手が違いますが、現場で学
び機械系の知識と経験を活かして、
お客様と一緒に改善策を練っていく
プロセスを大事にしています。
現在の主な取引先は工業分野です
が、今後手がける分野は、農林水産
業をはじめ、生活・環境・介護分野
など幅広いと考えています。「困
っていることがあれば、何でもご相談
ください」。企業に限らず、日常の
生活での身体への負担や環境改善に
も応えたいというのが大友さんの基
本姿勢です。

利府から発信するものづくり。
国内外に利府の存在を示したい。

今年7月、思い切って従業員を一



▲ ホットプレス機の改善事例は、水産新聞2023年10月9日付にも取り上げられました ▲ 子どもたちへのものづくり普及活動にも力を入れています

data: 十符の里工業株式会社
利府町沢乙字大沢東28番地1
022-353-5834
https://www.tofunosato-kogyo.com/

利府町で活躍する事業者を紹介していきます
十符（とふ）とは？ …… 昔、利府町の湿地帯には、良質な菅（スゲ）
草が生じ、「菅藪（スガコモ）」と呼ばれる敷物が作られていました。その
菅藪の編み目が10編あることから「十符の菅藪」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」
としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれる
ようになり、十（と）が利（と）に、符が府に変わったと言われています。

from RIFU-CHO CHALLENGER

— CHALLENGER —
馬のイラストレーター
「おがわ商店」店主
おがわじゅりさん



—— ただただ馬が好きだけ ——
「おがわ商店」としてtsumiki主催の「こ・あきない市」に初出店したの
は2023年3月でした。ブースには、看板商品である馬の缶バッチャ
やキーホルダーを買い求める人であふれ、店主のおがわさんは、お客さん
の対応に大わらわ。なかには、宮城県外からやってきたファンもいてイ
ラストレーターとしての人気がうかがえるひとコマでした。
おがわさんは、神奈川県出身。幼い頃から絵を描くのが好きで、中学
生になって競馬を題材とした漫画の影響を受けてからは、馬に関わる
仕事がしたいと思うようになりました。さらに馬好きが高じて高校生の
時には自宅でロバを飼いはじめ、卒業後はロバと一緒に北海道の生
産牧場に就職したそうです。しかし実際に牧場での仕事は厳しく、お
がわさんには勤まりませんでした。

—— 馬を通じた素敵な縁に恵まれて ——
一度は夢破れたおがわさんですが、馬からは離れられず、馬の絵を
描いたり馬のグッズを作ったりしていました。おがわさんにチャンスが
訪れたのは、馬事公苑のイベントに出店していた時。馬のグッズを扱う
会社の社長に声をかけられことがきっかけで、イラストレーターとして
仕事をするようになりました。その会社はJRA（日本中央競馬会）など
にグッズを卸していて、おがわさんのイラストが商品化され競馬場など
で販売されるようになりました。ちょっと前まで競馬ファンといえば男
性中心でしたが、最近は人気ゲームなどの流行りに乗って若い女性た
ちによる馬人気が高まっているそうです。おがわさんの描く馬は、かわ
いくデフォルメされた画風なのでグッズは若年層にヒットし、徐々に馬
のイラストレーターとして認知され、仕事も増えていきました。

—— 仕事も暮らしも楽しく自由に ——
2012年に利府町に移り住んでからも、東京を行き来して仕事をして
いましたが、2023年1月に独立。当初は、「これまで全て会社任せだっ
たので、仕事が一つも無くなるのではないか」と不安だらけのスタート
でした。幸いにも、馬を通じて知り合った夫が大の馬好きで、よく理解
者として応援してくれました。現在は缶バッチャの製造と発送作業は夫
が引き受け、出店があると娘たちが販売を手伝ってくれ協力体制も万
全です。「馬に特化した絵を描き続けたこと。時代の風や社会現象に
乗ることができることがラッキーでした」と話すおがわさん。
利府町といえば、近年スポーツ流鏑馬大会を開催しているので「利
府町オリジナルの商品の開発もしてみたいなあ」と考えているそうです。
おがわさんの手からどんな利府の名馬？が出来上がるのか楽しみです。

取材・文 葛西淳子



— INFORMATION —
ネットショップ「おがわ商店」
https://ogawa-shouten.booth.pm/
ホームページ「おがわじゅり・馬」
https://www.ogawa-juri.com/
umauma@muh.biglobe.ne.jp

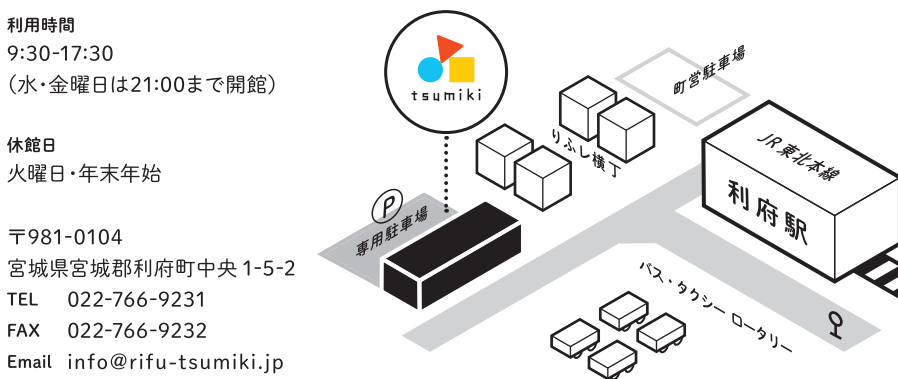
tsumiki TOPIC

【 tsumikiを飛び出し 「森のこ・あきない市」開催 】

2023年度秋のこ・あきない市は、会
場をtsumikiから宮城県県民の森青
少年の森に移し開催しました。「こ・あ
きない市」は、2017年2月から2023
年7月まで通算20回開催。のべ377
者の小商い事業者が参加し、その実
績を生かし生業につなげてきました。
来場者数も、毎回おおよそ300名と地
域に根差したイベントとして定着して
います。
この秋は、より一層利府町の良さを引
き出す「こ・あきない市」として、趣向
も新たに実施。当日は県内外で、コン
セプトをもって小商いをしているゲスト
出店者と公募によって採択された
出店者あわせて15店舗が並び、新し
いカタチの「こ・あきない市」を楽しん
でいただきました。



主催：利府町 企画運営：一般社団法人 Granny Rideto ディレクション：濱田直樹（KUNK）／ 鈴木朝美 サウンド：Nami Sato 会場デザイン：衣食住ユニットすまい 協力：宮城県県民の森



設置者 利府町(商工観光課シティセールス係)
管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto
利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワ
クワ感」をプラスした魅力的なまちづくりを進め
ています。起業・創業や「利府ならではの」シ
ティセールス政策や、移住・定住施策などに取り組んで
います。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味が
あり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意
志が込められています。

公式ウェブサイト rifu-tsumiki.jp Twitter @rifu_tsumiki Facebook <tsumiki>で検索 Instagram @rifu_tsumiki

「つみきのキモチ」は、利府町内を中心に隣接する市町村の公共施設、カフェ、店舗などで配布しています。
つみきのキモチ vol.22 発行日●2023年11月30日 発行●利府町 企画●一般社団法人Granny Rideto 編集●葛西淳子・横生和成(一般社団法人Granny Rideto) デザイン●伊瀬谷美貴(interagire)